

平成 22 年 7 月

事故分析だより

4

平成 22 年 上半期の交通死亡事故発生状況



交 通 企 画 課

平成22年上半期の交通死亡事故発生状況

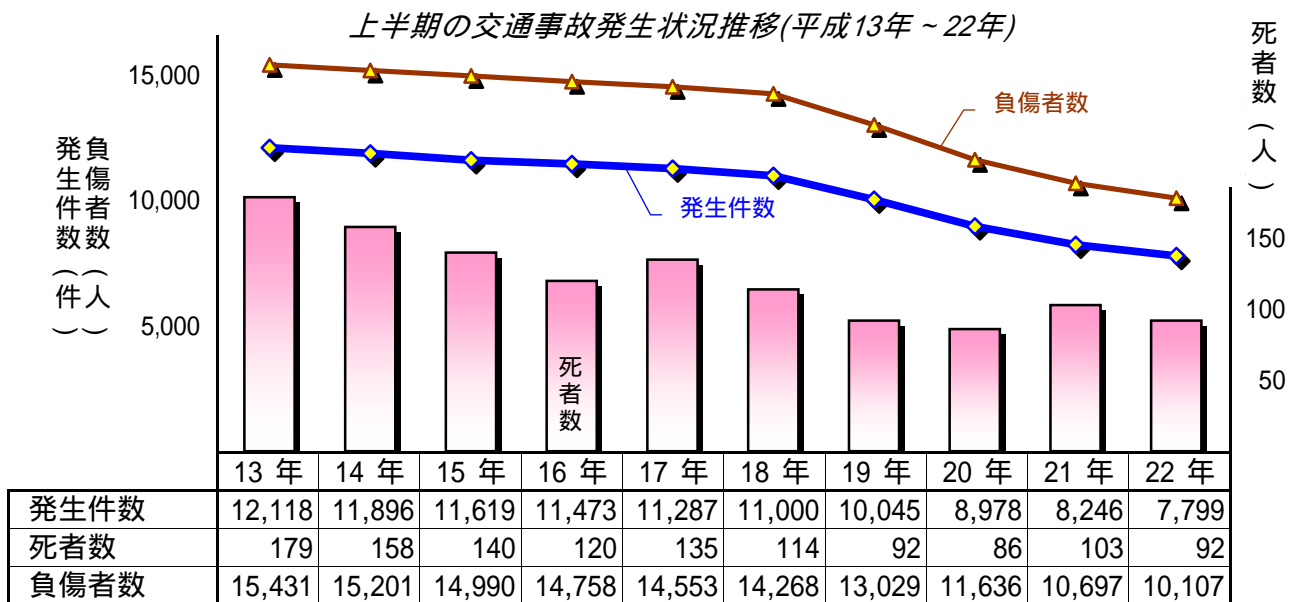
概況

死者数は92人 前年に比べ11人減少

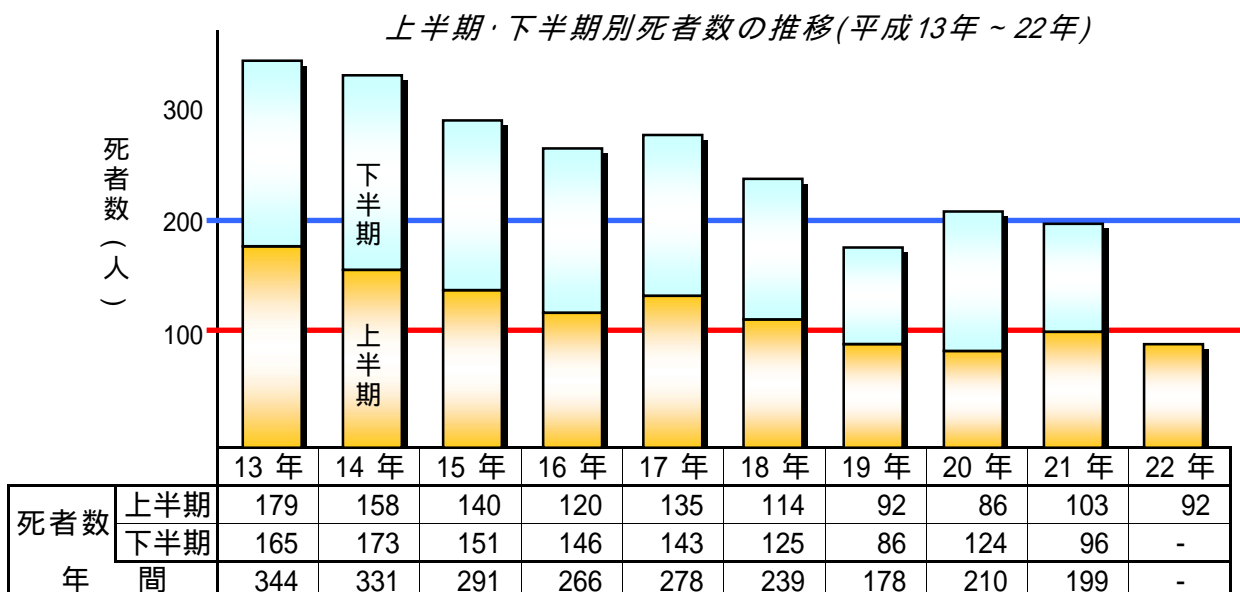
発生件数、負傷者数とも平成14年から9年連続で減少。

死者数は平成19年から2年連続で100人を切る等大幅な減少傾向で推移、翌21年に100人を超えたが、本年は再び100人を切り、平成19年と同数の92人、前年同期比は-11人と大幅減少。

	平成22年	平成21年	増減数	増減率
発生件数	7,799	8,246	-447	- 5.4%
死亡事故件数	90	101	- 11	-10.9%
死者数	92	103	- 11	-10.7%
負傷者数	10,107	10,697	-590	- 5.5%



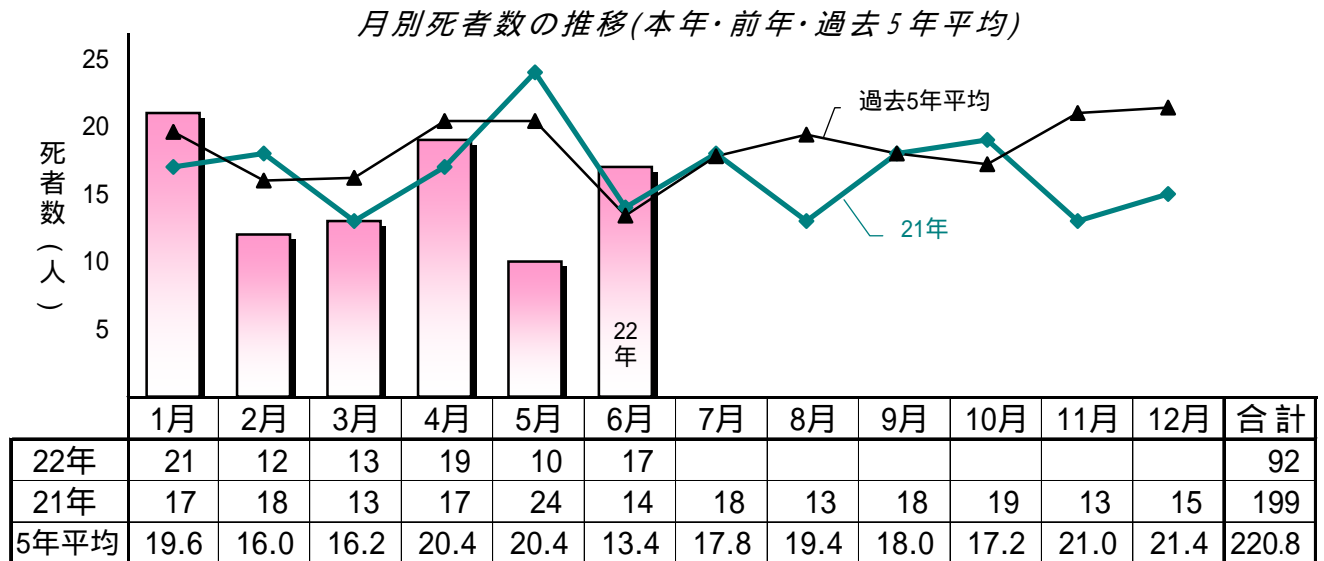
各年上半期(6月末)現在。



1月に多発 5月が大幅減少

月別死者数では1月(21人)だけが20人を超え最多、5月(10人)が最少。

前年同期比で増加は、1月(+4)、4月(+2)、6月(+3)、減少が多いのは5月(-14)で、5月は過去5年平均と比べても少ない。



過去5年平均は、平成17年～21年の平均値。

全国ワースト第3位

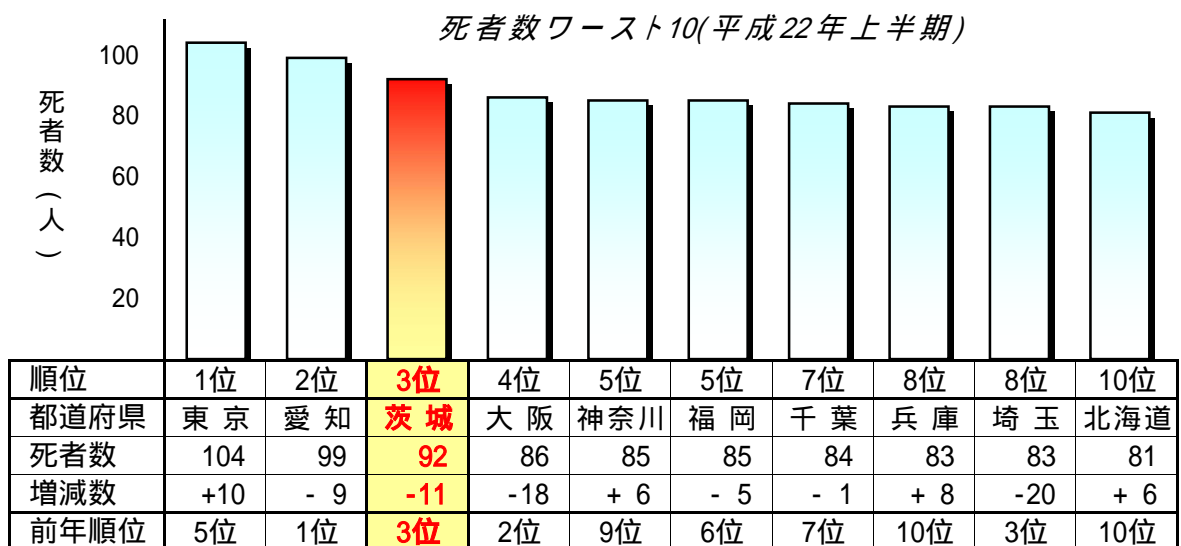
本県の死者数92人は、前年と同じ全国ワースト3位。

前年同期比 - 11人は、全国で5番目に多く減少。

死者数が100人を超える都道府県は東京(104人)のみ、最少は島根県(14人)。

全国の死者数は2,171人、前年同期比は減少(-49)。

死者数	92人	全国ワースト3位(前年同期 103人)	ワースト3位
減少数	-11人	全国ベスト 5位(" +17人)	ワースト1位
人口10万人当たり死者数	3.10人	全国ワースト4位(" 3.47人)	ワースト3位
自動車1万台当たり死者数	0.37人	" " 8位(" 0.42人)	ワースト3位
全国の死者数	2,171人	-49人(-2.2%)	



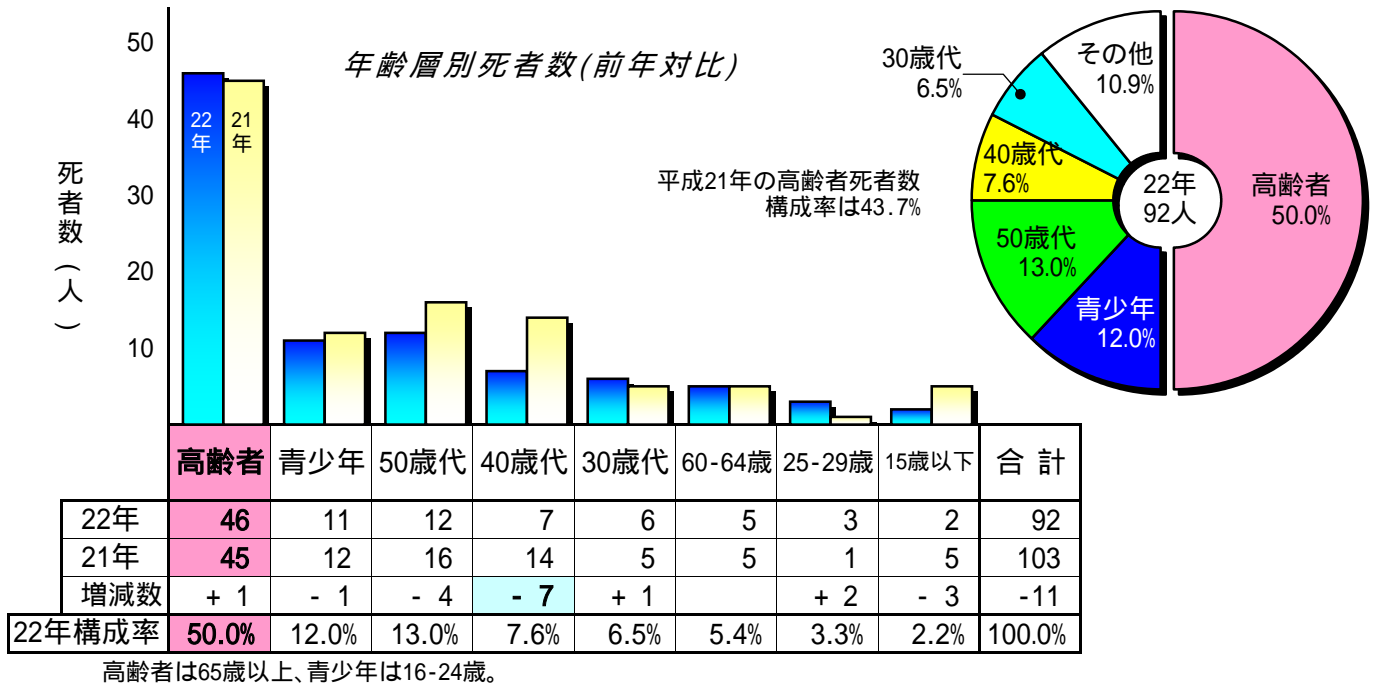
順位はワースト。

交通死亡事故の特徴

年齢層別死者数

高齢者の死者が5割、前年に比べ増加

高齢者(65歳以上)の死者数が46人(全死者数の50.0%)で最多、次いで50歳代(12人)。前年同期比では25-29歳(+2)、高齢者・30歳代(各+1)が増加、40歳代(-7)が大幅減少。



高齢者は四輪車・二輪車・自転車が増加

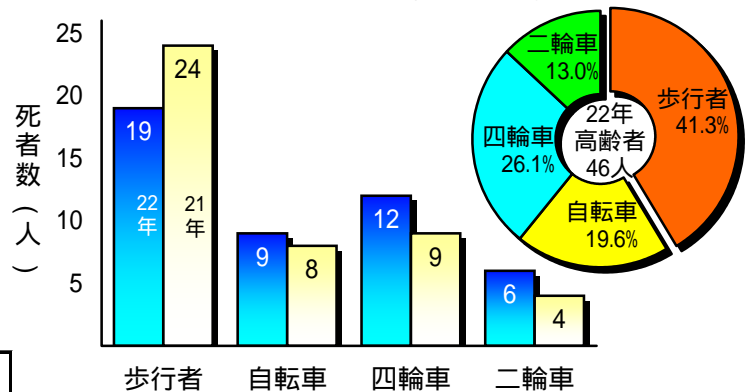
高齢者の死者数46人中、歩行者が19人(41.3%)で最多。

前年比同期では四輪車(+3)、二輪車(+2)、自転車(+1)が増加、歩行者(-5)は減少。

高齢者死者数ワースト順位

ワースト順位	都道府県	死者数	増減数	構成率	前年順位
1位	茨城	46	+1	50.0%	3位
2位	愛知	43	-8	43.4%	2位
3位	静岡	42	+10	55.3%	12位
3位	兵庫	42	+7	50.6%	9位
3位	千葉	42	+6	50.0%	8位
6位	福岡	41		48.2%	5位
7位	東京	39		37.5%	6位
8位	神奈川	38	+12	44.7%	19位
8位	北海道	38	-1	46.9%	6位
10位	長野	35	+8	70.0%	18位
	全国	1,092	+8	50.3%	

高齢者の状態別死者数(前年対比)



高齢者の死者数は、全国ワースト1位

本県の高齢者死者数46人は、全国ワースト1位。(前年同期は3位)。

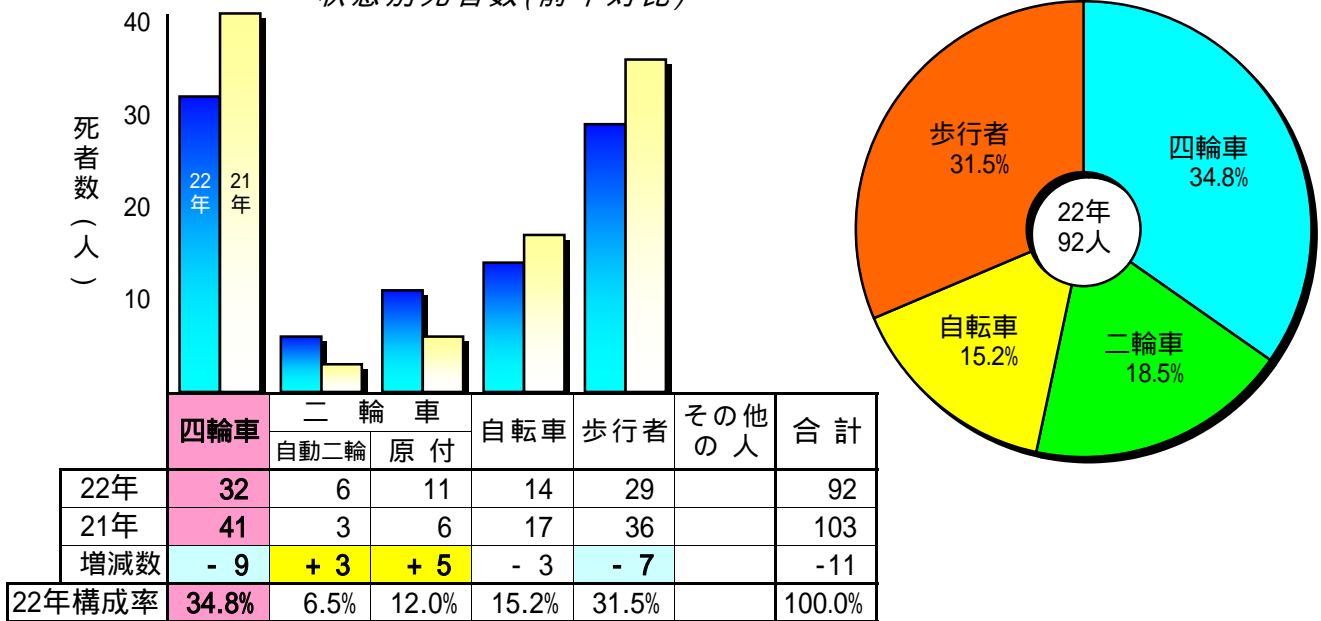
全国の高齢者死者数は1,092人で、前年同期比は増加(+8)、構成率(全死者に占める割合)は50.3%で、本県(50.0%)より0.3ポイント高い。

状態別死者数

四輪車の死者が約3割で最多、自動二輪・原付が増加

四輪車の死者数が32人(全死者数の34.8%)で最多、次いで歩行者(29人)。
前年同期比では原付(+5)、自動二輪(+3)が増加、四輪車(-9)、歩行者(-7)は減少。

状態別死者数(前年対比)



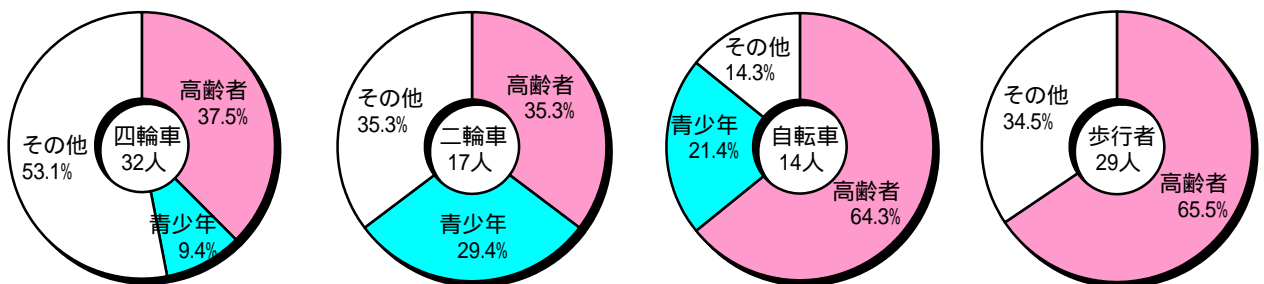
「その他の人」とは、物件・家屋等の中や畑の中等、道路外にいた人。

高齢者は各状態別で最も多い年齢層

状態別に死者の年齢層をみると、各状態(四輪車・二輪車・自転車・歩行者)とも、高齢者が最多。
特に高齢者は、歩行者(65.5%)、自転車(64.3%)に占める比率が高い。

各区分中増加が多いのは、青少年の二輪車(+4)・自転車(+3)、高齢者の四輪車(+3)、大幅減少は青少年の四輪車(-7)。

状態・年齢層別死者数(前年比較)



	高齢者	青少年	50歳代	40歳代	30歳代	その他	合計
四輪車	12	3	8	2	4	3	32
増減数	+3	-7	+1	-5	+1	-2	-9
二輪車	6	5	2	1	1	2	17
増減数	+2	+4	+2				+8
自転車	9	3		1		1	14
増減数	+1	+3	-2	-4		-1	-3
歩行者	19		2	3	1	4	29
増減数	-5	-1	-5	+2		+2	-7

年齢層の「その他」は、15歳以下、25-29歳、60-64歳の合計。

シートベルト着用別死者数

非着用 の死者が5割以上

四輪車の死者32人中、シートベルト非着用が17人で、5割以上(53.1%)。

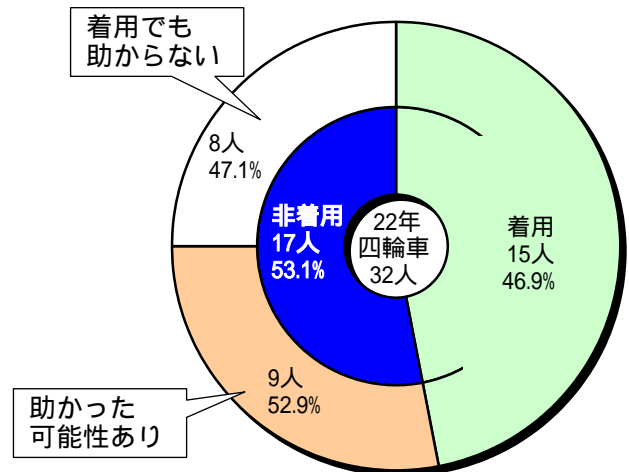
前年同期比では着用(-7)が大幅減少。

非着用死者17人中、52.9%に当たる9人は、シートベルトを着用していれば助かった可能性あり。

シートベルト着用別死者数(前年対比)

	着用	非着用	合計
22年	15	17	32
21年	22	19	41
増減数	-7	-2	-9
構成率	22年	53.1%	100.0%
	21年	46.3%	100.0%

非着用死者17人のうち、ベルトを着用していれば		22年構成率
助かった可能性あり	9	52.9%
着用でも助からない	8	47.1%



非着用の死者は高齢者が最も多く、増加

非着用死者17人を年齢層別にみると、高齢者が7人で非着用死者の4割以上(41.2%)を占める。

前年同期比では高齢者(+5)が大幅増加、40歳代(-5)、青少年(-4)人が大幅減少。

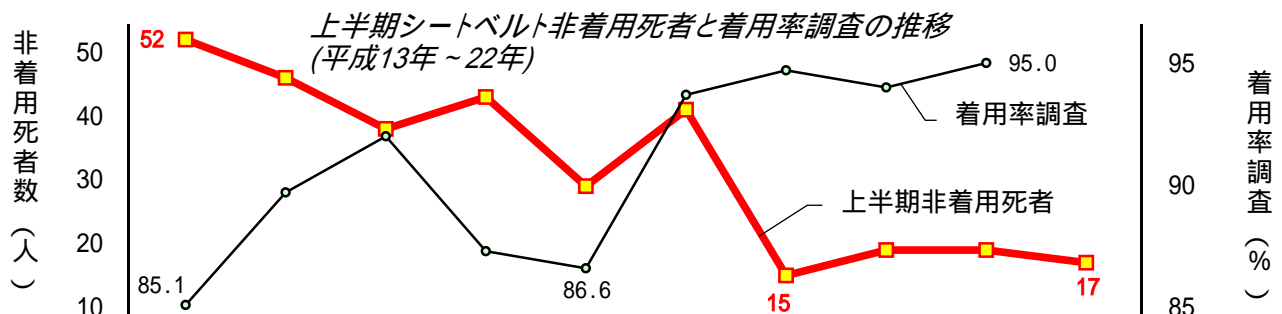
非着用死者	高齢者	青少年	50歳代	40歳代	30歳代	その他	合計
22年	7	2	3	1	2	2	17
21年	2	6	1	6	2	2	19
増減数	+5	-4	+2	-5			-2
22年構成率	41.2%	11.8%	17.6%	5.9%	11.8%	11.8%	100.0%

年齢層の「その他」は、15歳以下、25-29歳、60-64歳の合計。

シートベルト着用率の向上に伴い、非着用の死者は大幅減少

シートベルト着用率調査は、10年間で9.9ポイント増と大幅に向上。平成17年(86.6%)に全国最下位を記録して以降は90%を超え、平成21年は95.0%と過去最高を更新(平成22年は10月に調査)。

着用率の向上とともに、非着用の死者は10年間で約3割に減少。



		13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	対13年比
四輪死者	着用	42	38	32	16	32	20	21	21	22	15	-27
	非着用	52	46	38	43	29	41	15	19	19	17	-35
	合計	94	84	70	59	61	61	36	40	41	32	-62
着用率調査		85.1	89.7	92.0	87.3	86.6	93.7	94.7	94.0	95.0	-	+9.9

1 四輪死者は各年6月末現在。着用率調査は本県の数値で、各年度(毎年10月上旬JAFと警察共同調査)。

2 シートベルト着用状況の統計開始は、平成2年以降。

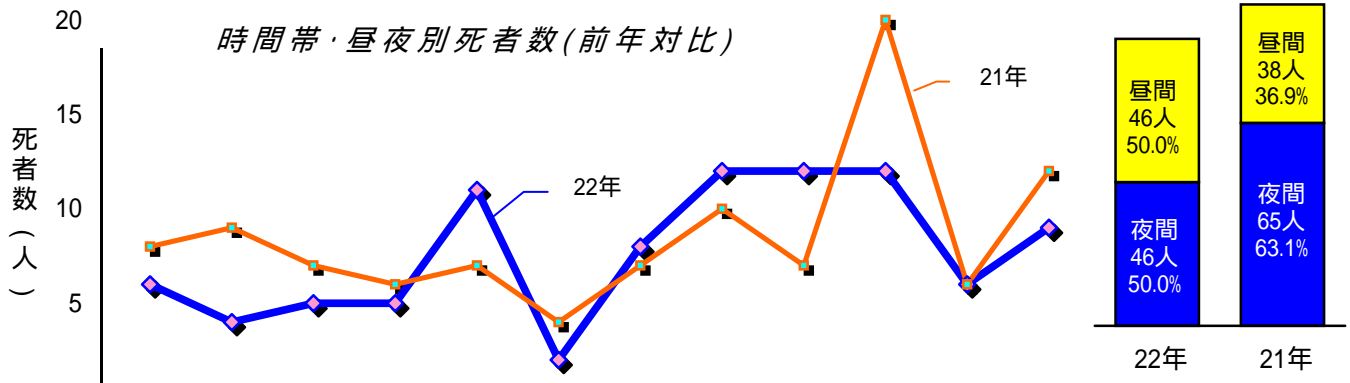
時間帯・昼夜別死者数

昼夜とも同数 昼間が増加、夜間は大幅減少

時間帯では14～16時・16～18時・18～20時(各12人)が最多、次いで8～10時(11人)。

前年同期比では16～18時(+5)の増加が多く、18～20時(-8)が大幅減少。

昼夜別では昼間・夜間とも同数の46人(各全死者数の50.0%)、前年同期比では昼間が増加(+8)、夜間は大幅減少(-19)。



	0～	2～	4～	6～	8～	10～	12～	14～	16～	18～	20～	22～	合計	昼間	夜間
22年	6	4	5	5	11	2	8	12	12	12	6	9	92	46	46
21年	8	9	7	6	7	4	7	10	7	20	6	12	103	38	65
増減数	-2	-5	-2	-1	+4	-2	+1	+2	+5	-8		-3	-11	+8	-19

昼間の増加は二輪車・高齢者、夜間の減少は四輪車・歩行者

増加した昼間(死者数46人、増加数+8人)

年齢層では高齢者が26人(昼間死者の56.5%)、状態では四輪車が19人(同41.3%)で最多。

前年同期比で増加が多いのは、年齢層では高齢者(+6)、状態では二輪車(+7)。

各区分中、特に高齢者の四輪車・二輪車(各+3)が増加。

		死者数				合計	構成率	増減数				合計
		四輪車	二輪車	自転車	歩行者			四輪車	二輪車	自転車	歩行者	
昼 年 間 の 状 態 別 死 者 数	青少年	1	2	1		4	8.7%	-1	+2	+1		+2
	30歳代	2	1			3	6.5%	+1	+1			+2
	40歳代	1				1	2.2%	-1	-1	-1		-3
	50歳代	4	1		1	6	13.0%		+1	-1	+1	+1
	高齢者	10	6	5	5	26	56.5%	+3	+3	+1	-1	+6
	その他	1	2	1	2	6	13.0%	-2	+1		+1	
	合計	19	12	7	8	46	100.0%		+7		+1	+8
	構成率	41.3%	26.1%	15.2%	17.4%	100.0%	年齢層の「その他」は、15歳以下、25-29歳、60-64歳の合計。					

減少した夜間(死者数46人、減少数-19人)

年齢層では高齢者が20人(夜間死者の43.5%)、状態では歩行者が21人(同45.7%)で最多。

前年同期比で減少が多いのは、年齢層では高齢者・50歳代(各-5)、状態では四輪車(-9)、歩行者(-8)。

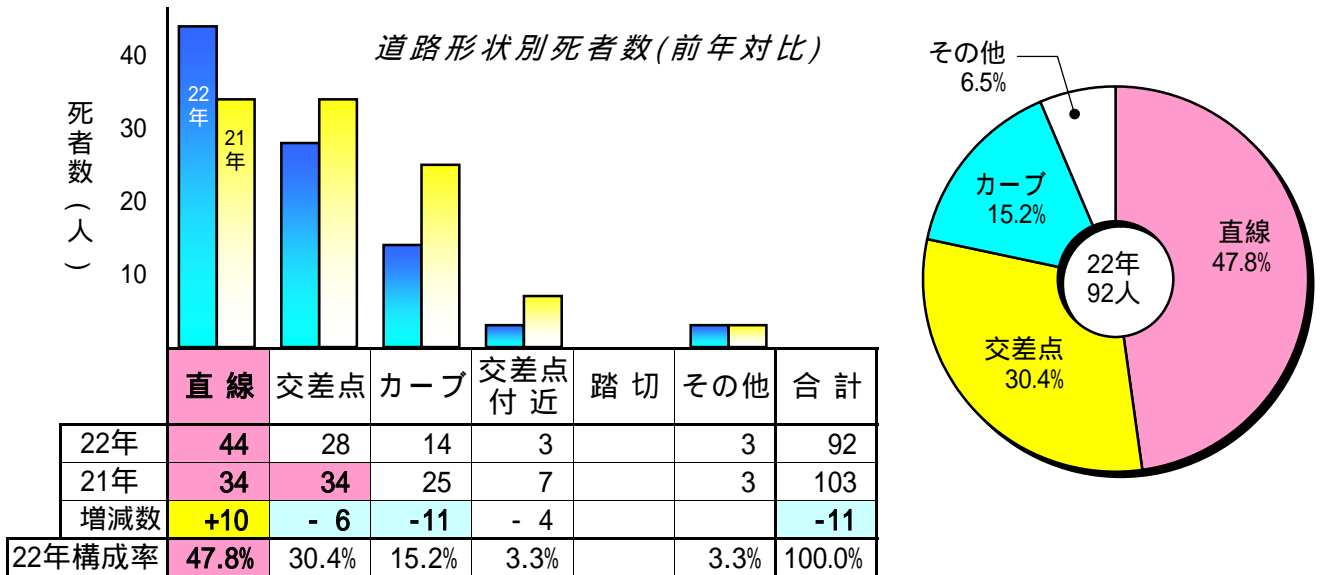
各区分中、特に青少年の四輪車、50歳代の歩行者(各-6)が減少。

		死者数				合計	構成率	増減数				合計
		四輪車	二輪車	自転車	歩行者			四輪車	二輪車	自転車	歩行者	
夜 年 間 の 状 態 別 死 者 数	青少年	2	3	2		7	15.2%	-6	+2	+2	-1	-3
	30歳代	2			1	3	6.5%		-1			-1
	40歳代	1	1	1	3	6	13.0%	-4	+1	-3	+2	-4
	50歳代	4	1		1	6	13.0%	+1	+1	-1	-6	-5
	高齢者	2		4	14	20	43.5%		-1		-4	-5
	その他	2			2	4	8.7%		-1	-1	+1	-1
	合計	13	5	7	21	46	100.0%	-9	+1	-3	-8	-19
	構成率	28.3%	10.9%	15.2%	45.7%	100.0%	年齢層の「その他」は、15歳以下、25-29歳、60-64歳の合計。					

道路形状別死者数

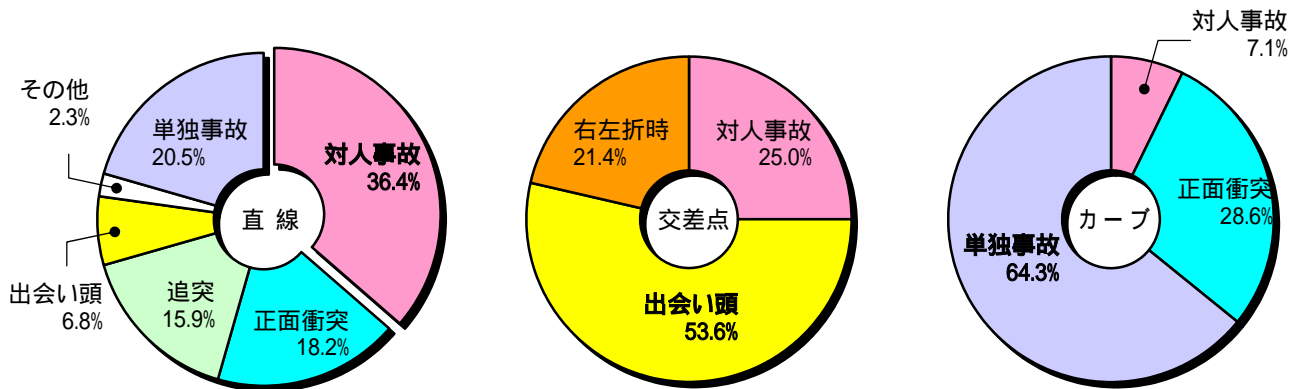
直線の死者が約5割で最多

直線の死者数が44人(全死者の47.8%)で最多、次いで交差点(28人)。前年同期比では直線(+10)のみ増加、カーブ(-11)が大幅減少。



直線は対人事故、交差点は出会い頭、カーブは単独事故が多い

道路形状別に事故類型をみると、直線は「対人事故」(36.4%)、交差点は「出会い頭」(53.6%)、カーブは「単独事故」(64.3%)が多い。



道路形状・事故類型別死者数

		直線		交差点		カーブ	
		人数	構成率	人数	構成率	人数	構成率
対人事故		16	36.4%	7	25.0%	1	7.1%
車両相互	正面衝突	8	18.2%			4	28.6%
	追突	7	15.9%				
	出会い頭	3	6.8%	15	53.6%		
	右左折時			6	21.4%		
	その他	1	2.3%				
単独事故		9	20.5%			9	64.3%
合計		44	100.0%	28	100.0%	14	100.0%

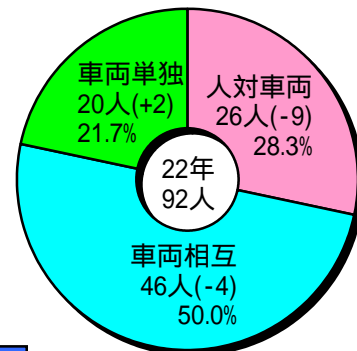
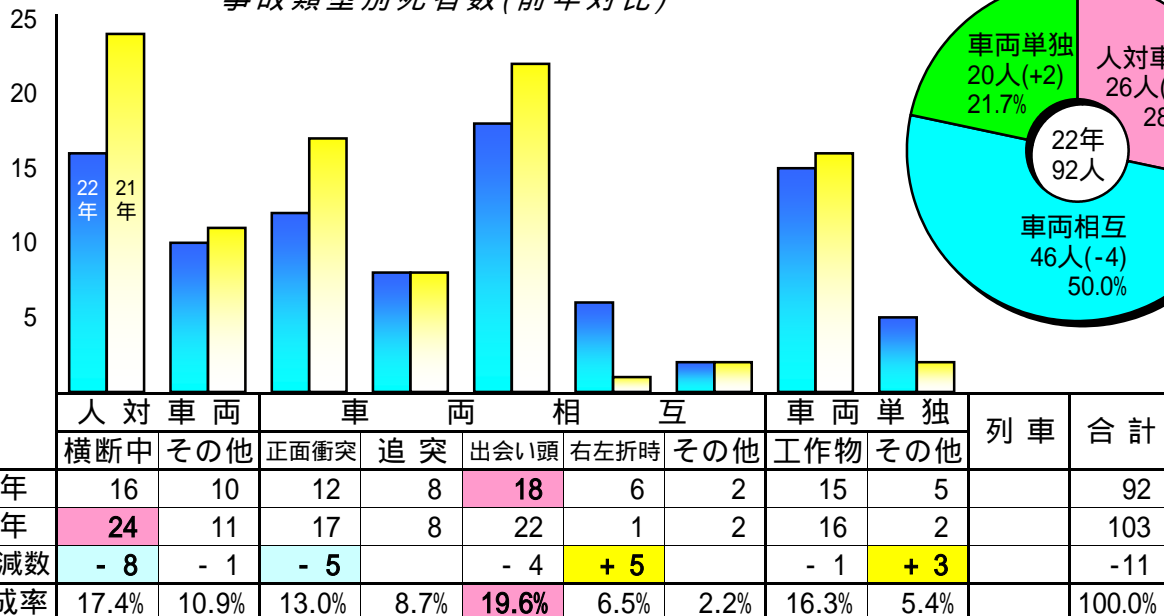
事故類型別死者数

出会い頭衝突が最も多い

車両相互が46人(全死者の50.0%)で最多。
 小類型では出会い頭(18人)が最多、次いで横断中(16人)。
 前年同期比では右左折時(+5)の増加が多く、横断中(-8)、正面衝突(-5)が大幅減少。

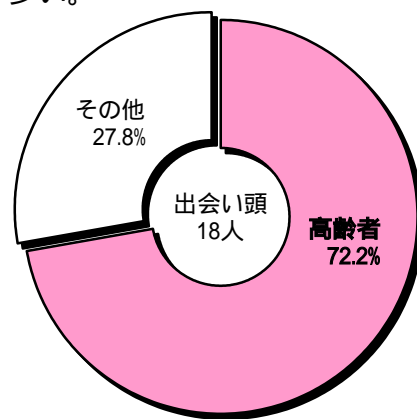
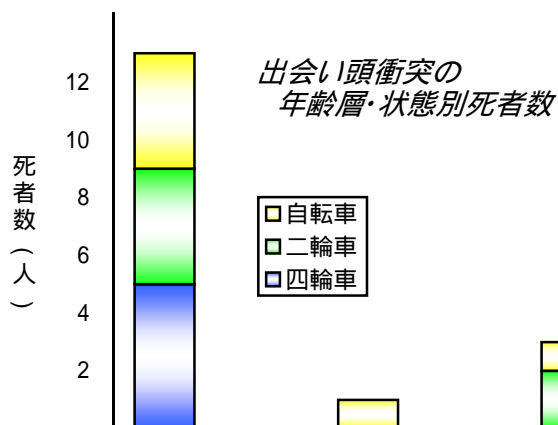
事故類型別死者数(前年対比)

死者数(人)

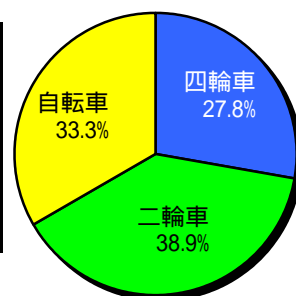


出会い頭の死者は、高齢者が7割以上

出会い頭の死者18人を年齢層別にみると、高齢者が13人(構成率72.2%)で最多。
 状態別では二輪車(7人)が最も多く、次いで自転車(6人)、四輪車(5人)。
 各区分中、高齢者の四輪車(5人)、二輪車・自転車(各4人)が多い。



	高齢者	50歳代	40歳代	30歳代	青少年	その他	合計	構成率
	四輪車	5						
二輪車	4				2	1	7	38.9%
自転車	4		1		1		6	33.3%
合計	13		1		3	1	18	100.0%
構成率	72.2%		5.6%		16.7%	5.6%	100.0%	

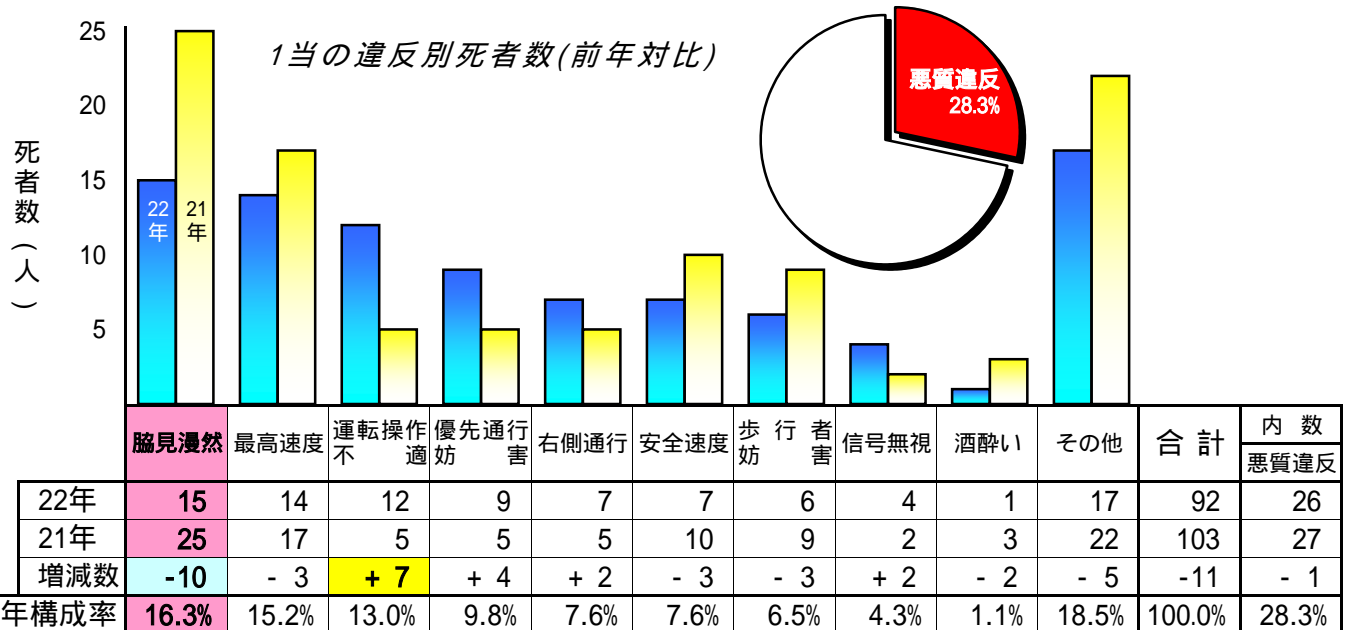


四輪車の死者5人中、同乗は2人。

1 当の違反別死者数

脇見漫然が最多、運転操作不適が増加

脇見漫然が15人(全死者数の16.3%)で最多、次いで最高速度(14人)、運転操作不適(12人)。前年同期比では、運転操作不適(+7)が大幅増加、脇見漫然(-10)が大幅減少。悪質違反による死者数は26人(28.3%)で、前年比は減少(-1)。



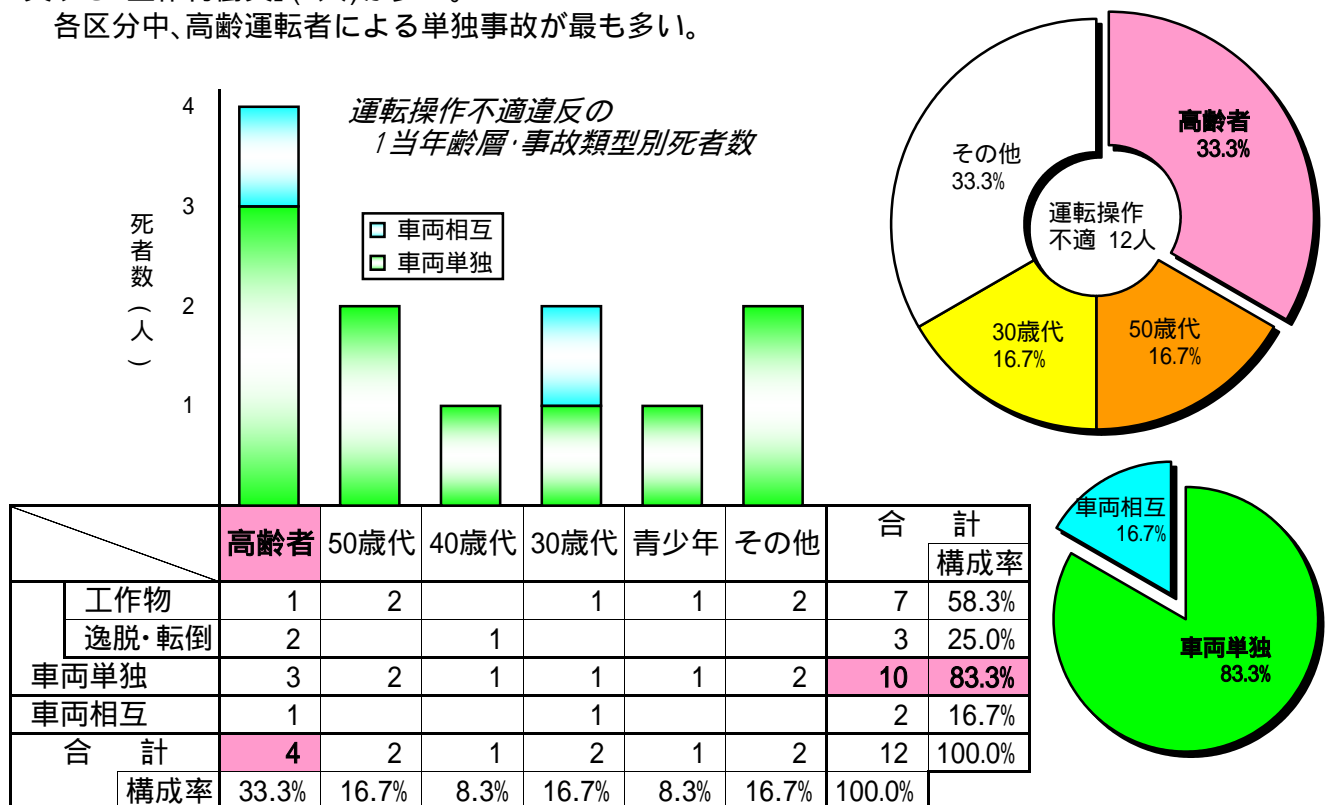
1 1 当の違反による死者数。 2 悪質違反とは、最高速度・右側通行・酒酔い・信号無視の計。

運転操作不適による死者は、単独事故が8割以上、年齢層では高齢者が最も多い

運転操作不適による死者数12人を1 当の年齢層別にみると、高齢運転者による死者が4人(33.3%)で最多。

事故類型別にみると、単独事故が10人(構成率83.3%)で最も多く、このうち特に電柱や家屋等に衝突する「工作物衝突」(7人)が多い。

各区分中、高齢運転者による単独事故が最も多い。



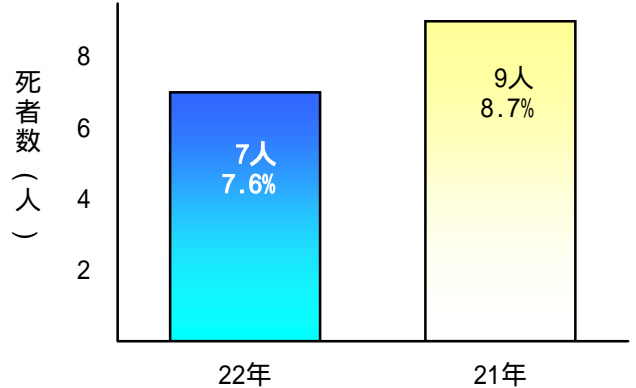
年齢層の「その他」は、15歳以下、25-29歳、60-64歳の合計。

飲酒運転による死者数

死者7人 前年より2人減少

飲酒運転による死者数は7人(全死者数の7.6%)。前年同期比は-2人と減少。

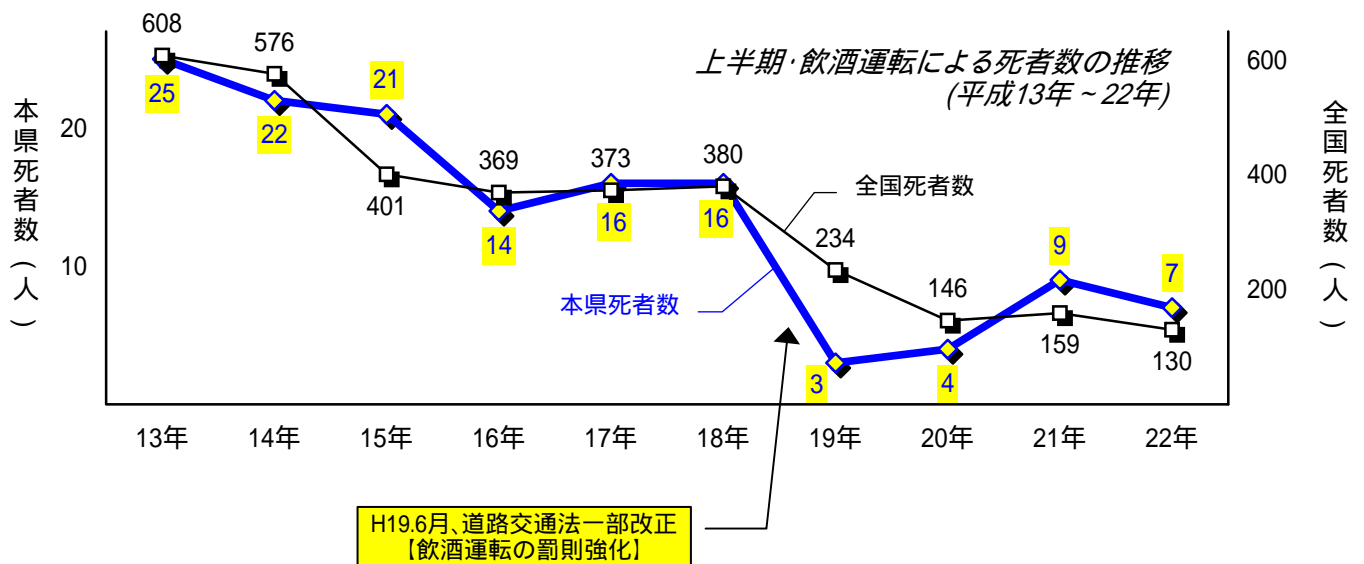
	22年		21年		増減数	
	死亡件数	死者数	死亡件数	死者数	死亡件数	死者数
	7	7	9	9	- 2	- 2



- 1 飲酒運転は原付以上の運転者が1当となった事故。死者数はその事故による被害で、飲酒運転者が死亡しているとは限らない。
- 2 構成率は、全死者数に占める割合。

本県の飲酒運転による死者数は、平成20年から微増傾向

10年間の上半期飲酒運転による死者数をみると、本県は平成18年まで緩やかに減少後、19年(3人)に急減したが、翌20年からは微増傾向、一方、全国は緩やかな減少で推移。



死者数全国順位はワースト3位

本県の飲酒運転による死者数7人は、全国ワースト3位(前年同期と同じ)。

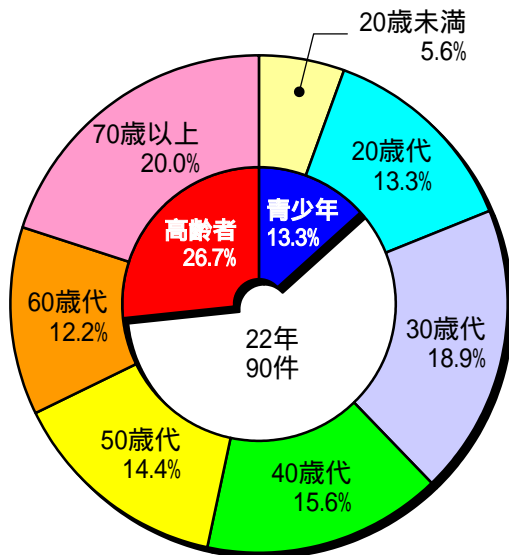
全国の飲酒運転による死者数は130人で、前年同期比は減少(-29)、構成率(全死者に占める割合)は6.0%で、本県(7.6%)は全国より1.6ポイント高い。

飲酒運転による死者数ワースト順位

ワースト順位	都道府県	死者数	増減数	構成率	前年順位
1位	愛知	11	- 2	11.1%	1位
2位	千葉	8	+ 1	9.5%	5位
3位	兵庫	7	+ 5	8.4%	23位
3位	茨城	7	- 2	7.6%	3位
5位	神奈川	6	+ 2	7.1%	15位
5位	栃木	6		9.2%	9位
7位	大阪	5	- 1	5.8%	9位
7位	東京	5	- 3	4.8%	4位
9位	鳥取	4	+ 4	19.0%	41位
9位	長崎	4	+ 3	11.4%	32位
	全国	130	-29	6.0%	

構成率は、死者総数に占める飲酒運転による死者数の割合。

1当の年齢層別死亡事故件数



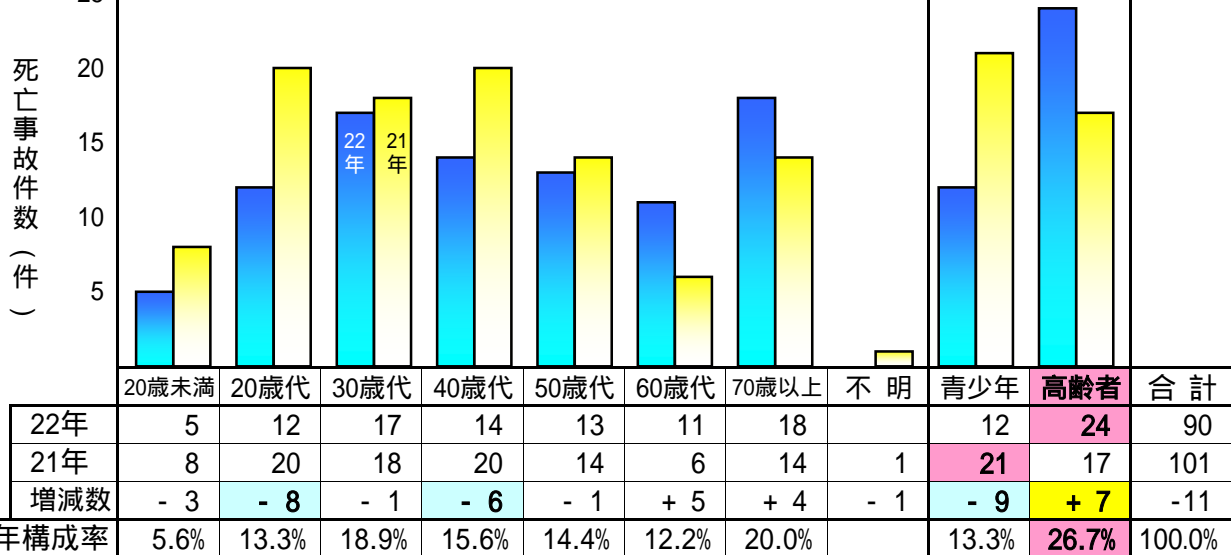
高齢者による事故が最も多く、増加

70歳以上が18件(全死亡事故の20.0%)で最多、次いで30歳代(17件)。

内数の高齢者(65歳以上)は21件(全死亡事故の23.3%)、青少年(16~24歳)は12件。

前年同期比では高齢者(+7)が大幅増加、青少年(-9)、20歳代(-8)、40歳代(-6)が大幅減少。

1当の年齢層別死亡事故件数(前年対比)



1 事故を起こした側の年齢で、当事者が死亡しているとは限らない。 2 高齢者は65歳以上、青少年は16-24歳で内数。

高齢者による死亡事故は、交差点が約6割、特に出会い頭・右左折時衝突が多い

高齢者による死亡事故(24件)を道路形状別にみると、交差点が14件(構成率58.3%)で最多。事故類型別にみると、出会い頭が9件(構成率37.5%)で最多、次いで右左折時(5件)。特に、交差点における出会い頭・右左折時衝突(計13件、構成率54.2%)が多い。

高齢者1当の道路形状・事故類型別死亡事故件数(前年対比)

	死亡事故件数				合計	構成率	増減数				合計
	交差点	直線	カーブ	その他			交差点	直線	カーブ	その他	
人対車両	1	2			3	12.5%				-1	-1
車両相互	出会い頭	8	1		9	37.5%	+3	-1			+2
	右左折時	5			5	20.8%	+5				+5
	他相互		2		1	3	12.5%				+1
単独事故		2	2		4	16.7%	-1	+2	-1		
合計	14	7	2	1	24	100.0%	+7	+1	-1		+7
構成率	58.3%	29.2%	8.3%	4.2%	100.0%						